

国内研修報告書

北海道 厚沢部町

2016年 1月31日(日)～2月5日(金)

私は国内研修制度を利用して、1月31日から2月5日の期間で北海道の厚沢部町へ行きました。厚沢部町は函館から車で1時間ほどのところにある広大で自然豊かな町です。農業を主としています。中でも厚沢部町はジャガイモ「メイクイン」の発祥の地として有名です。また、町は地域おこし協力隊を積極的に誘致して活性化に努めています。しかし、人口は約4000人、高齢化率は約37%であり人口減少と少子高齢化の問題を抱えています。

まず私が今回の研修に参加しようと思った理由は二つあります。一つ目は大学の講義で学んだまちづくりに関することは現場に行ってみないとわからないこともたくさんあると感じ、現状を自分の目で見てみたいと思ったからです。机上で学ぶことだけで終わらせたくないと思っていました。二つ目は自分の将来やりたいことを見つける一つのきっかけが欲しいと思ったからです。

今回の主な研修内容は、役場でのヒアリング・町内見学・道の駅の訪問とヒアリング・小学校の放課後子ども教室訪問・音楽療法を用いた活動(生きがいデイサービス)の見学・地域の体操教室(元気はつらつ教室)への参加・ちょっと暮らし住宅の見学・有料老人ホーム「ゆいま〜る」の見学です。

町内見学では今回私が研修に行くことになったきっかけを作ってくださった厚沢部町の地域おこし協力隊の川合さんが車で案内してくださりました。見学の途中で、農業を営む方に直接お話を聞く機会がありました。その方は、農業以外にも自分が栽培したものを使い加工商品を作っていました。ちょっとしたアイデアで新たな商品を開発し魅力あるものを作られていました。何よりもその方が「楽しく」やっていることが印象的でした。その他にも行った先々で私たちのことを皆さんがとても温かく迎えてくださりうれしく思い、厚沢部町の方々の温かさを知りました。

私が今回の研修を通して一番強く感じたことは厚沢部町はとても広いにもかかわらず、近所づきあいがとても深く、遠くの住民のことでさえも知っているという人が多いということです。都会に住んでいる私たちは隣の住人でさえ誰が住んでいるかを知らなかったり知ろうとしていないという現状があります。私自身も自宅隣の建物がアパートなのですが誰が住んでいるかということ把握できていません。今回の研修で役場の方をはじめ、協力隊の方や住民の方同士のお話などを聞いていると「あその〇〇さんが」と言っただけで誰のことを指しているかということが互いに分かり合っているという状況がたくさんありました。私は地域の住民同士のそういったつながりが素晴らしいと思いましたが、どこの地域においても今後必要になっていくことだと思います。高齢化が進む中で一人暮らしの高齢者が増え、誰にも気にかけてもらうことなく孤独死してしまう高齢者も増えてしまっています。しかし、厚沢部町のように住民同士の日頃からのつながりがあることで多くの人に気にかけてもらえるし、コミュニケーションをとることで孤独を感じることも少ないだろうと思います。

また、今回私が参加させていただいた生きがいデイサービスと元気はつらつ教室には多

くの高齢者が参加されていました。参加されていた方々にお話を伺うと、「週1回こうやってみんなで集まるのが楽しい」、「毎回すごく楽しみにしているんです」といった声を聞きました。みんなで一緒に集まってコミュニケーションをとることが高齢者の生きがいになっているということがわかりました。こういった高齢者の方々が顔を合わせる機会が継続的・定期的に行われている為か、皆さんがとても生き生きとしていたように感じました。皆さんの笑顔が印象的でした。

私が参加させていただいたプログラムの音楽療法とは音楽を利用して心身の回復などを目指したり、健康を維持していくために用いられる療法の1つです。音楽で刺激することで認知症予防にも役立ったり、家族や恋人をテーマにした曲を歌うことで昔の記憶を思い出したりすることもあるそうです。私は今回初めて音楽療法の存在を知ったのですが、音楽療法には多くのメリットがあることを高齢者の皆さんと一緒にやらせていただいたことで実感したのもっとたくさんの地域で広まってほしいと思いました。高齢者が積極的に外へ出て多くの人とコミュニケーションをとり、普段の生活とは異なる刺激を受けることで高齢者が健康を維持できる環境となると思うので、そういった機会を作ることの大切さを痛感しました。

また、厚沢部町の町長さん、副町長さんをはじめとする町役場の方や観光協会の方、地域おこし協力隊の方々など多くの方に貴重なお話を聞くことが出来て、厚沢部町の活性化の工夫や取り組みについて伺うこともできました。皆さんのお話を聞いて厚沢部町は町を活性化させよう、良くしよう、と様々な取り組みが行われていることを知りました。

厚沢部町では「素敵な過疎づくり株式会社」が「ちょっと暮らし用住宅」を整備しています。ちょっと暮らし住宅とは「厚沢部町に住んでみたい」「住んでよかった」と思ってもらえるように一時的に他地域からの人に住んでもらい厚沢部の魅力を知ってもらおうといったものです。私も実際にちょっと暮らし住宅を見に行きましたが、どの住宅もとてもきれいで設備が整っていて快適さに驚きました。もっと多くの方に利用してもらえたらいいのではと思いましたし、ちょっと暮らし住宅の利用を通して厚沢部町の住民が増えるといいなと思いました。「過疎」と名前についているようにマイナス部分と捉えられるところをあえて前向きに捉えていることに新しさや斬新さを感じました。

また、町の広報誌である『広報あっさぶ』では広報課の方が町のイベントなどの紹介をして魅力を伝えたり人々のつながりを作るだけではなく、行政情報なども提供することで住民が生活しやすい環境づくりも行っています。住民の方々との近い距離を大事にして要望に答えられるような住民目線の広報づくりを心掛けているそうです。そして、農家と若者をつなぐ活動もあります。夏に運転免許取得を希望してきた若者に空いた時間に農作業を行なってもらうようにしてそこで稼いだお金を免許取得の資金に充てるといった内容です。こういった企画は農家の住民にとっては若い世代に農業の素晴らしさや大変さを知ってもらえるのにとってもいい機会になると思います。また、若い世代の人は普段都会に住んでいてはなかなか経験することのできない新鮮な野菜を食べることが出来たり、野菜本

来の味を知る事が出来たりといった貴重な体験をすることが出来ると思います。違う世代の人々との交流は互いにいい刺激になることだろうとも思いました。

私が今回の研修で最もいい刺激となったことはたくさんの大人に出会えたことです。初めてお会いした方々と深くお話しさせてもらったことは私の人生にとってとてもいい刺激になりました。自分の今まで気がつかなかったことや、気づいていながらも避けていたこと、勘違いしていたことなども知ることが出来て自分を見つめ直す良い機会となりました。私は今回の研修に行くにあたり「もっと広い視野を持って多くのことに関心を持てるようにする」ということを目標として掲げていました。普段、私はまわりにあわせてしまったり、大多数の意見や考え等に流され、その意見こそが正しいと考えてしまいがちでした。しかし、今回の研修を通して現地で活躍する方々はきちんと自分の意見を持ち、反対派の意見の人をも巻き込めるぐらいの説得力のある考えを持っているということを事を感じました。

広報課の方は自分の書いた記事を発行するにあたり自分が現地に行ってその場の声を聞いているからこそその伝え方やレイアウトにこだわりがあるように感じました。自分の意見を無理に変えないことも大事だとお話しされていました。また、農業に力を入れている方は一般的に考えられている農業の現状に関する考え方とは違った意見を持っている方もいました。みなさんそれぞれ異なる考え方を持っていて私自身ももっと多くのことに目を向けてみようと思えました。

色々な意見を持っている人が集まっているからこそ議論が活性化し、新たな取り組みが生まれてその例として厚沢部町が多くの人に知られ活気がある町へと変化しているのではないかと思います。

今回の研修は私にとってとてもいい経験になりました。厚沢部町のまちづくりについても自分の目で見る事が出来て初めて知ることも多く勉強になりました。今回で得たことはこれから先も大事にして今後の大学生生活に役立てていきたいです。厚沢部町だけでなくほかの地域へも行って見てみようと思えます。勉強できただけではなく一緒に行ったメンバーとも意見を言い合い共有しあえてお互いのことも知る事ができました。何よりも楽しい思い出にもなりました。また、今後やりたいことがまだ明確に決まっていなかった私にとって今後の選択肢の1つとなりました。今回出会えた多くの方々との関係も研修だけで終わらせるのではなく今後もつながってられるようにたくさんのことに積極的に取り組みたいと思います。